

11月11日～17日は 税を考える週間

みなさんに負担していただいている税金は、教育や福祉、道路整備など、私たちの身近な暮らしに使われています。また、市の平成29年度決算において、市全体の歳入約332億4,281万円のうち、市税は約184億2,997万円で、全体の歳入のうち市税の占める割合は約55.4%と、なくてはならない貴重な財源です（8～9ページの決算見込み参照）。

「税を考える週間」では、税について正しく理解し、税と暮らしの関わりを改めて考えてもらうための取り組みを行っています。

●中学生から「税についての作文」を募集

国税庁では、全国の中学生から「税についての作文」を募集し、吹田税務署管内からは2,602編、うち摂津市内から474編の応募がありました。

これは、税をテーマとして作文を書くことにより、税に関心を持ち、税についての正しい理解を深めてもらうことを目的に実施しています。

下記の作文は、摂津市長賞を受賞した作品であり、災害を通して、税金の「使われ方」「集め方」「大切さ」に気付いた作品です。

みなさんも、税と暮らしの関わりについて考えてみましょう。

●「税を考える週間」啓発イベント

11/13日(火)午後1時半～4時半

エキスポシティ「光の広場」

(吹田市千里万博公園2-1)

税金クイズや1億円のレプリカ展示などを実施

問合せ 三島府税事務所 ☎ 072 (627) 1121 へ

市の相談窓口

税のことでわからないことがあれば、各担当課にお問合せください。

■市民税課 ☎ 06 (6319) 1990

▽個人市民税、法人市民税、軽自動車税、市たばこ税▽各種申告手続き▽各種証明書（所得証明、納税証明、評価証明など）

■固定資産税課 ☎ 06 (6383) 1349

固定資産税▽家の取壊しや増築▽土地や家屋の評価

■納税課 ☎ 06 (6383) 6133

▽税金の納め方について▽納付相談

毎月第3火曜日に税務相談を実施

市では、毎月第3火曜日に近畿税理士会による税務相談（要予約）を実施しています（詳細は毎月広報紙15ページの一覧に記載）。

「税と生活のつながり」

摂津市立第三中学校3年
金崎杏さん

先日、私は生まれてはじめて大きな水害を目の当たりにした。ちょうど家の真裏が川でいつ氾濫するかドキドキして夜も眠れなかったが、夜が明けて無事過ごせたことで安堵した。しかし、ニュースを見ると岡山や広島地方では大きな被害にあっていて、建物がたくさん水没し、みなさん避難している様子が映し出されていた。翌日も同じ場所が映し出されていて、すでに大きな重機が土のうをつみ、山から流れてきた石や木を撤去していた。これはだれが頼んでくれたのかと父に聞くと、「個人でできることではなく、市町村や府、県レベルで動いていることだ」と教えてくれた。このような災害があったとき、すぐに税金を使って安全の確保をしていることを知り、税金について調べた。

さらに調べると、私の通う学校の費用も多くは税金で支えられていることを知った。建物の修理、配布されるプリント類、体育や音楽で使われる道具、楽器も税金で買ってもらっていることを知った。またほとんどのものが税金を使っていることがわかった。母の勤務する小学校にも「コピー用紙の無駄づかいはやめよう」と書いてい

て、先生たちも意識して大切に使用していると教えてくれた。

では、税金はどのようにして集められるのか。私が一番よく知る税金は「消費税」だ。しかし、この消費税が何のために使われているのか調べたところ消費税の多くは年金・医療・介護・子育て支援などに生きていくうえで一番大切なところに使われていた。買い物をするとき「8%分」お金を「取られる」という感覚だったが、こうして勉強してみると「税金でみんなの生活を守っている」ことがよくわかったので少し安心することもできたし、その税金は大切に使用してほしいという願いも生まれた。

税金はみんなから集めると莫大な金額になると思う。それを困っている人のために使うことはとてもいいことだと思う。税金の使い道は「どんな人」「何のために」必要なのかをしっかりと考えて、今回の災害のときのように活用してほしいと思う。

今後、税金をどのように考えるべきか。平均寿命が長くなった時代、医療費を税金で補うとともに、高齢者の方がずっと健康に過ごせるような手立てをするために使われるほうがいいのではないか。人々が幸せになるためにどのように使えばいいのかをみんなで考えていきたい。